

# 東西言語類型の記述的・理論的研究

研究代表者 大 石 強

## 1. 分担者

大 石 強	英米文化講座
福 田 一 雄	人間学講座
山 崎 幸 雄	人間学講座
舩 城 俊太郎	日本文化講座
三 井 正 孝	日本文化講座
藤 石 貴 代	東洋文化講座
秋 孝 道	英米文化講座
駒 形 千 夏	英米文化講座
高 田 晴 夫	ヨーロッパ文化講座
並 木 宏	ヨーロッパ文化講座

## 2. 協力者

成 田 圭 市	教育人間科学部教授
本 間 伸 輔	教育人間科学部助教授
池 田 英 喜	国際センター助教授

## 3. 2006年度の研究活動の概要

東西言語類型に関わる基礎的研究について、以下の研究会で議論・検討を行った。

1. 新潟大学言語研究会・人文学部プロジェクト「東西言語類型の記述的・理論的研究」・現社研プロジェクト「言語の普遍性と個性」共催  
日時：平成18年5月26日(金) 午後5：30～  
場所：総合教育研究棟A棟3F「学際交流室」

<研究発表>

三ツ井正孝（人文学部）「複合格助詞の<機能>」

2. 新潟大学言語研究会・人文学部プロジェクト「東西言語類型の記述的・理論的研究」・現社研プロジェクト「言語の普遍性と個別性」共催

日時：平成18年7月24日(月) 午後5：30～

場所：総合教育研究棟A棟3F「学際交流室」

<研究発表>

1. 権 英秀（現社研） 韓国人日本語学習者の「断り」表現の中間言語  
— 新聞販売員に対する言語スイッチについて —

2. 林 河運（現社研） 初対面接触会話における話題の導入のポライト  
ネス・ストラテジー（仮題）

3. 新潟大学言語研究会・人文学部プロジェクト「東西言語類型の記述的・理論的研究」・現社研プロジェクト「言語の普遍性と個別性」共催

日時：平成18年11月13日(月) 午後5：30～

場所：総合教育研究棟A棟3F「学際交流室」

<研究発表>

近藤綾子（現社研）「通常，平均などとの隔たりを示す副詞」

4. 新潟大学言語研究会・人文学部プロジェクト「東西言語類型の記述的・理論的研究」・現社研プロジェクト「言語の普遍性と個別性」共催

日時：平成19年3月2日(金) 午後5：30～

場所：総合教育研究棟A棟3F「学際交流室」

<話題提供>

1. 近藤綾子 「修士論文を完成して」（テーマ：日本語の程度表現）

2. 王 怡人 「博士論文を完成して」（テーマ：現代中国語の結果複合  
動詞）

3. 三ツ井正孝「副詞〈とうてい〉考」

4. 福田一雄 「語用論の現在：関連性理論とポライトネス理論をつなぐ  
もの」

#### 4. 2006年度の研究成果の概要

東西諸言語の普遍性と個別性を明らかにする基礎的研究として、各言語に見られる制約・原理を明らかにするための個別研究の蓄積を前年度から継続して行った。

#### 5. 2006年度の研究成果の一覧

福 田 一 雄

1. 著書：『Theme-Rheme Structure: A Functional Approach to English and Japanese』, 単著 (英文), 2006年4月, Niigata University Scholars Series (NUSS), Vol. 5, 新潟大学大学院現代社会文化研究科, 総頁187 + xii.
2. その他：『英語教育の哲学と方法をもとめて』単著, 2007年1月, 中央評論, 第258号 (中央大学出版部), 24-34頁

船 城 俊太郎

1. 論文：「サフラヒヨハンヌ」の敬語性, 単著, (『日本語と日本文学』第44号・平成19年2月 [筑波大学国語国文学会])

秋 孝 道

論文 (印刷中) : Notes on the Existential Sentence with a Locative Expression in English, 単著, 新潟大学言語文化研究12号

大 石 強

1. 論文：「総合的複合語に課される条件」, 単著, 2007年3月, 『欧米の言語・社会・文化』第13号, 1-15頁
2. 論文：「英語副詞句の階層性」, 単著, 2007年3月, 『欧米の言語・社会・文化』第13号, 17-28頁

三 井 正 孝

論文：「格助詞らしからぬ〈複合格助詞〉--- ニツイテ, ニトツテ, ヲモツテ,

トシテの場合---」,単著,2006年11月,藤田保幸・山崎誠(編)『複合格助詞の現在』(和泉書院),113-135頁